

市民企画事業／事業案内

アジア太平洋戦争と日本国憲法

西東京風の会

日本がアジア太平洋戦争に突入した歴史と、戦前・戦後の憲法をひも解きます。そして双方がいかに密接に関係していたかを学びます。

- 時 7月31日(土) 14時~16時半
場 保谷駅前公民館
対 市内在住・在勤・在学者
定 30人(申込順)
講 中村孝文(武蔵野大学教授)
¥ 200円(資料代)
申 7月2日(金) 10時から電話で

サークルから 催し物案内

茨木のり子没後15年 詩と暮らし ~東伏見に48年~パネル展
茨木のり子の家を残したい会
7月11日(日)~17日(土) /9時~17時(初日13時から) /柳沢公民館

サークルから 会員募集

たまむし 玉蟲句会(俳句)
第2月曜日・第4火曜日 /13時~16時 /保谷駅前公民館 /月額500円

たらちねmama(短歌)
月2回木曜日 /10時~12時 /柳沢公民館 /月額1,000円(講師有りの月のみ)

フォトクラブ保谷
第3土曜日 /18時~20時 /柳沢公民館 /月額2,000円

※金額の記載がないものは無料です。

9月1日号の原稿締め切りは、7月20日(火)です。

9月号のお題 「見」です
締切 7月21日(水)
おたのしみ川柳 今月のお題「織」
織り姫もマスクで逢瀬天の川
祖父織りしごぞで孫祖母おままごと
コロナ禍で家族織りなす家ごぼん
山代節子
屋代節子
山口紅華
編集室では、みなさまの投稿をお待ちしています。氏名・住所・電話番号を記入の上、お近くの公民館に郵送、メール、持参でお寄せください。

市民企画事業／申請受付

公民館市民企画事業 第3期申請受付が始まります

公民館市民企画事業は、市内の自主グループが企画・運営する事業を、審査の上、自主グループと公民館の共催事業として実施するものです。この制度を利用できるのは、その年度の説明会に参加した自主グループです。

- 【申請期間】 7月2日(金)~9日(金) ※ただし、平日の9時~17時に限ります。
【調整会】 日時:7月20日(火) 19時~ 場所:柳沢公民館
【実施期間】 10月1日(金)~12月26日(日)

中央図書館・田無公民館の 耐震改修工事が始まりました

工事に伴う騒音等により、近隣住民の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

休館期間
令和3年4月1日から
令和4年3月31日(予定)まで

休館中の連絡先
休館期間中、田無公民館に関する問い合わせは、柳沢公民館へお願いします。

田無公民館つうしん
工事完了までの1年間、「田無公民館つうしん~耐震改修工事ニュース~」を市ホームページに随時掲載しますのでぜひご覧ください。



▲くまねずら「マメ子と魔物」

「コロナ禍で、こつこつ機会に出会えずにいましたが、子どもたちが引き込まれるように見えました」「親子でワクワクしました」「小学生でも楽しめるくらい楽しくてドキドキするから、来年は友達も連れてきたいです」会場設営にコロナ対策がなされていて安心できました。子どもたちが気軽に人形劇を楽しめる機会を西東京市に根付かせたい」と願う市内活動団体で構成される実行委員会と柳沢公民館の共催事業として、4年目を迎えました。昨年、緊急事態宣言解除後の6月早々に話し合いの機会を持ちました。収束が見えない中、開催の可否を悩み、迷い何度も話し合いを重ねました。そして「コロナ禍だからこそ」「子どもたちに人形劇を届けたい。笑顔

迎えた当日は、子どもたちの楽しそうな笑い声があふれ会場全体があたたかい雰囲気になりました。演者からも「久しぶりに人形に触れて元気が出た。やっぱり人形劇はいいね」といった声が聞かれました。コロナ疲れと言われる日常に、子どもから大人まで誰もが一緒に楽しめる心の栄養が必要なのだあらためて感じました。また今回は、多くの方に人形劇を届ける新たな試みとして、市民

報告
人形劇フェスタin西東京実行委員会・柳沢公民館 共催事業
第15回 人形劇フェスタin西東京
令和3年3月21日実施
「コロナ禍で、こつこつ機会に出会えずにいましたが、子どもたちが引き込まれるように見えました」「親子でワクワクしました」「小学生でも楽しめるくらい楽しくてドキドキするから、来年は友達も連れてきたいです」会場設営にコロナ対策がなされていて安心できました。子どもたちが気軽に人形劇を楽しめる機会を西東京市に根付かせたい」と願う市内活動団体で構成される実行委員会と柳沢公民館の共催事業として、4年目を迎えました。昨年、緊急事態宣言解除後の6月早々に話し合いの機会を持ちました。収束が見えない中、開催の可否を悩み、迷い何度も話し合いを重ねました。そして「コロナ禍だからこそ」「子どもたちに人形劇を届けたい。笑顔

迎えた当日は、子どもたちの楽しそうな笑い声があふれ会場全体があたたかい雰囲気になりました。演者からも「久しぶりに人形に触れて元気が出た。やっぱり人形劇はいいね」といった声が聞かれました。コロナ疲れと言われる日常に、子どもから大人まで誰もが一緒に楽しめる心の栄養が必要なのだあらためて感じました。また今回は、多くの方に人形劇を届ける新たな試みとして、市民



▲豆くま「くじらとタコと海の仲間」

の協力で当日の動画を作成しました。市ホームページで3団体の作品を配信しています。ぜひご覧ください。(QRコード参照)
今後も「人形劇の楽しさ」を届ける思いと活動は続きます。一緒に人形劇をやりませんか。運営協力も大歓迎です。お気軽に公民館にお問い合わせください。
動画はこちら

ミニ紙面講座②

水辺の動物

~カルガモの親子~

春はカルガモの親子が道路を横切って歩く姿が話題になります。カルガモは水から離れた安全な場所で抱卵し、ふ化したひなたちを引き連れて水辺に移動するからです。カルガモのお引越として知られる一大イベントです。ふ化したばかりの小さなカルガモのひなたちは親鳥の後を必死になって追いかけています。生まれたばかりのひながどうして親の後を素直についていくのでしょうか？これはカルガモのひなが親を瞬時に覚える能力を備えているからです。生まれて最初に目にした、動いて声を出すものを親として覚え、その後を追いかける本能行動です。ひなたちの脳には、印刷されたかのように一瞬にして誰が親なのか記憶されるため、この現象は刷り込み(インプリンティング)と呼ばれます。ひなたちは刷り込まれた親の記憶を長い間持ち続けます。そのため、親鳥は子どもたちに時間をかけて、遊泳や飛行、エサの採り方などを教えることができます。ひたすら親鳥の後を追いかけてながら親鳥のまねをするひなたちはげなげですね。

写真を見てください。ひなを引き連れている親鳥が雄か雌かわかりますか？白い縁取りの尾羽をもち背中が薄茶色の特徴

から雌であることがわかります。カルガモは抱卵から子育てまで全て雌が行い、その間、雄は遊んでいるというから驚きです。繁殖期のカモは一般に雌雄で模様が全く違います。雄は雌にアピールするために派手な色と模様をした夏羽を身につけます。しかし派手な模様は外敵に狙われやすく、繁殖期を終えた雄は雌のような地味な模様をした冬羽に替えてから北国へ渡ります。では日本のカルガモの雄はなぜ一年中地味な冬羽のままなのでしょうか？カルガモは渡りを行わずに一年中日本で生活します。日本で繁殖するカモはカルガモだけなので、カルガモの雄には競争が無く、地味なままであるという説があるようです。カルガモにとって日本は住みやすい場所なんですね。



▲子ガモに付き添って教える母鳥



▲石神井川(東伏見三丁目付近)にて

市内の主な観察スポット

- 石神井川
いこいの森公園
せせらぎ公園

